

著書出版報告・学会大会発表報告ほか

村田 あが

1) 著書の刊行

『生活文化論』（共著）出版報告

佐々井啓・篠原聡子・飯田文子編著 シリーズ<生活科学>『生活文化論』

2002年4月10日発行，朝倉書店

本書は，時代別に衣食住の文化史をまとめた生活科学系の教科書である。筆者は日本の住居史のうち，第3章第1節「寝殿造りに住まう」（p.16-19），第4章第1節「座敷の発達—書院造りの形成」（p.28-31）を担当執筆した。

2) 学会大会発表報告

①日本風俗史学会第42回総大会研究発表報告

標記学会総大会の研究発表は，2001年10月に京都女子大学（京都府京都市）にて行われた。発表論文名「『家相新編』にみる明治期の家相説をめぐる状況」（『風俗史学』18号p.66-67）。明治34年刊行の『家相新編』の背景と内容の分析を通して，江戸時代中・後期の家相流派の状況を明らかにした。なお，本研究は平成13年度科学研究費補助金の助成を得て行った。

②日本家政学会第54回大会研究発表報告

標記学会大会の研究発表は，2002年6月に昭和女子大学（東京都世田谷区）にて行われた。発表論文名「『人家必用小成』にみる天保年間の住まい像」（日本家政学会第54回大会梗概集p.232）。天保8年刊行の家事の書にみる家相説の扱われ方についてまとめ，同時代の家相文献との比較をした。なお，本研究は平成13年度科学研究費補助金の助成を得て行った。

3) 雑誌への寄稿の報告

雑誌『エンジン』2002年11月号への寄稿報告

標記の車専門誌の，東京都心の再開発にかかわる特集「グローバル・トーキョーが生まれ変わる」に，「新東京の風水は変わるのか？」と題した文章を執筆する機会を得た（『エンジン』No.26，2002年11月号，新潮社，p.173）。東京都心が高層ビル群の出現により様変わりしている様相を，中国伝来の風水説の環境の捉え方を通して解説した。なお，本小文も平成13年度科学研究費補助金の助成によるものである。